

“Media/Coupling 2.0”

映像、音響、テキストをカップリングさせて連歌のように作品の時系列を発生させる。異なるメディアがそれぞれ自律しながらも相互に浸透しあって、メディア現実を形成する。2013年にHAGISOで発表した「Media/Coupling」の手法を更新した作品モデルである。稲田禎洋、小沢裕子の協力を得て制作した。まず稲田が短い映像をつくり、つぎに村山がその映像に音響を鳴らし、そして小沢がこれらにテキスト（字幕、図形など）を付与する。この間に、相互に打ち合わせなどは原則的に行わず、それぞれのメディアをもって応じることとする。このサイクルを1SHOTごとに繰り返しながら次第にビデオを連ねてゆく。本作ではおよそ3分のあいだに16サイクルしている。共感的なエクササイズのための集団ドロージングとも言えるだろう。さらなる時間を経れば、そのなかにはメディアを介したコミュニケーションのパタンが生じるはずである。テレビや映画、ネット動画といった映像文化が、それぞれ独自の映像文法世界を構築してきたように、メディアをとおした制作行為によって映像文法世界を共-形成する試み。

